



上川地本ニュース

Jichiro Kamikawachihon

発行者：自治労北海道上川地方本部 発行者住所：旭川市永山6条19丁目 2014年12月1日 第1号

上川地方本部第19回定期大会

2015年度のたたかう方針固まる



上川地方本部では、11月28日・29日の2日間、第19回定期大会を開催し、14本の代議員からの発言により方針が補強され、たたかう方針を確立しました。大会には、28単組・総支部145人仲間が結集し、多くのご来賓から激励を受ける中、盛会に終了することができました。また、12月の総選挙に向け「ささき隆博」さんへ推薦状を交付するとともに、統一地方選挙候補予定者の推薦決定を行い、たたかう意思統一を図ってきました。

《2015執行体制》

執行委員長

○千野 勝 (士別市職労)

副執行委員長

高橋 利玄 (音威子府村職)

高野 尚 (上川町職労)

関澤 博行 (富良野市労連)

松本 将門 (全道庁上川)

書記長 朋広 (名寄市職労)

執行委員

佐藤 浩介 (旭川市職労)

齋藤 英夫 (下川町職労)

樋口 晶丈 (和寒町職労)

山内 岳男 (鷹栖町職)

松井 潤 (東神楽町職)

石川 雅憲 (上富良野町職)

只野 景子 (上川町職労)

藤原 敏矩 (富良野市労連)

多田 牧子 (富良野市労連)

会計監査委員

高松 徹 (上富良野町職)

加藤 和恵 (比布町職)

※書記次長・臨非枠執行委員・

職能評議会選出執行委員は、

後日選出

(○)専従者)



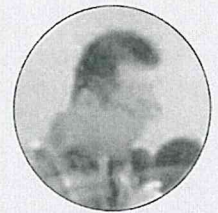
辻 秀人 代議員
上富良野町職執行委員長

10月23日に給与制度見直しの11月臨時議会提案が出され、不当な提案の先送りと役職加算の復元、通勤手当の増額を求める交渉を粘り強く進めてきた。結果として、組合の要求をくみ取ったうえでの継続協議とさせてきた。今後は組織の全体化が課題。

給与制度見直しや一非の合理化組織を中心に確定闘争をたたかってきた。継続協議として今後も取り組み強化していく。旭川市協で署名や政治集会を開催し横の連携を強化してきた。弱者切り捨ての高橋道政を世論に訴えながら政治闘争に結集する。



萩野 亮 代議員
全道庁上川総支部書記長



浜田 和明 代議員
当麻町職執行委員長

給与制度見直しを継続協議とさせるべく、統一闘争としてたたかいて進めてきた。結果としては、11月臨時議会提案の間部を打ち破ることはできなかったが、産前産後休暇の拡大を独自要求で勝ち取るとともに賃金制度改善の検討は継続協議とさせてきた。

4月に四役全員が不在となり、厳しい情勢の中で、薬剤科の勤務体制変更の交渉を進め、役員体制確立の必要性を確認し、5年ぶりの定期大会を開催することができた。この間の取り組みで10人以上の新規加入があり、組織強化の足掛かりとし、実態把握を進めていく。



濱岸 弦生 代議員
旭川市病労書記長



大竹 清司 代議員
旭川市職労執行委員長

旭川市長選挙で多くの単組にお世話になり、結果を出すことができた。2014秋期闘争では、1号俸抑制はやられてしまったが、その分独自抑制していた分の復元で相殺させ、住居手当維持も担保させた(28日)三井・白鳥組織内市議から新たに白鳥・高木でたたかっていく(29日)

旭川市長選挙の結果を来る総選挙、統一地方選挙につなげるべく、取り組みの強化をお願いしたい。統一闘争の重要性はもちろんあるが、当局に国の言いなりにさせない取り組みも重要、現場の思いを依拠した闘争を春闘につなげていこう。旭川市病の活動にも期待している。



【答弁】
長能 朋広 書記長



西垣 充孝 代議員
名寄市職労書記長

7月に提案された賃金合理化提案の交渉を進めてきた。結果として、組合員5級の道を閉ざさせず、若年層の在級年数短縮を勝ち取った。臨非の昇給制度は、当局案より1号俸上乘せと前歴換算、ベースアップを勝ち取ることができ、現場からは「うれしい」という言葉が出た。

給与制度見直しを継続協議とさせるよう、取り組みを進めてきた。結果として、見直しについて継続協議とさせてきたが、当局側から枠外号俸や55歳昇給停止など、他の部分での制度見直しが意思表示された。2015春闘に向け、暮らしと賃金を守るたたかいを進めていく。



矢口 敦 代議員
剣淵町職労執行委員長



奥田 俊二 代議員
富良野市労連書記長

給与制度見直しの1月1日1号俸抑制阻止の交渉を進めてきた。当局はラスを理由とした水中引き下げを目論んでおり、抑制は阻止できたが今後厳しいたたかいが予想される。臨非については、通勤手当改善を担保し、具体は春闘期に決着する。人事評価の学習機会を求める。

交流集会運動での実態討論から、自分に置き換えて考えることの大切さを実感するとともに、課題の全体化、賃金学習を強化してきた。政治が職場や暮らしに直結していることを学び、青年がどのような社会にしたいのか?を明確にし、選挙闘争に結集していく。



堂前 裕明 代議員
上川地本青年部長



高橋 将人 代議員
士別市職労書記長

給与制度見直しを早期に継続とさせ、通勤手当の改善と臨非のベースアップ・寒冷地手当と特別休暇の拡大・通勤手当拡大の足掛かりを確保した。持家手当復元が今後の課題。総選挙には、地元の佐々木隆博、統一では北口雄幸の出身単組として、精一杯取り組んでいく。

権利実態調査から、数年間で産前産後休暇改善を勝ち取った単組があることは情報共有の成果。平和闘争では3地本で街頭署名を実施した。役員選出のための組合では無いが、家庭・子育てと両立しながらの活動に負担感があることは否めない。組織強化につながる体制を熟考する。



多田 牧子 代議員
上川地本女性部副部長



村岡 裕一 代議員
和寒町職労執行委員長

人を大切にしない前町長の体制下において、メンタルで休む仲間が増え、3人が退職した。新町長は、人員不足を理解しており、計画的な採用を進めるよう共通認識を持つことができた。今後も、地本の方針に基づきながら、人員確保闘争に取り組む。

旭川療育センターは、道北を範囲とした障がい施設であり、ニーズにこたえるため業務量は増加している。勤務体制が厳しい中で、職員増が必要にもかかわらず、道はあと2年で1000人削減を目標としている。安倍政権の社会保障制度改革も影響出ており、選挙闘争へ結集必要。



遠藤 公子 代議員
全道庁上川総支部副執行委員長

自治労では新卒組合員のほかに1,600人の組合員が増加しており、少しずつだが社会的責任が果たされようとしているとともに、その流れの中にある。正規化を目指す臨時・非常勤職員の処遇改善は、組織し、ともにたたかう体制づくりを進めなければならない。地域不安定雇用を役所が増やしてきた現実からは、職員の仕事として解決すべき課題でもある。道政における一律の人員削減は必要なサービスまでも低下させている。そういった状況であっても現場の労働者は、低下を招かないように意識し働いている。このような職場での繁忙、人員不足、賃下げなどの現象は政治がもたらしたものだ。解決するためにも総選挙勝利、自治労政策協力議員候補 ささき隆博を再度国会に送り出さなければならない。また、来春の統一自治体選挙での道政課題解決、民主的な地方政治実現のため、各単組・総支部での候補者擁立作業お願いするとともに、自治労組織内候補の完勝をめざす。



【総括答弁】
千野 勝 委員長

ささき隆博「総決起集会・大集会」への最大結集を!

- 士別BL (士別・剣淵・和寒)
12月 2日(火) 18:30~士別グランドホテル
- 旭川BL (旭川・上川・愛別・当麻・比布・鷹栖・東川・東神楽・美瑛)
12月 3日(水) 18:30~旭川トーヨーホテル
- 名寄BL (名寄・下川・美深・音威子府・中川)
12月 4日(木) 19:00~名寄市民会館
- 富良野BL (富良野・上富良野・南富良野・占冠)
12月 8日(月) 19:00~富良野文化会館



自治労上川地方本部は11月15日の第8回執行委員会で、佐々木隆博さんを推薦決定しています。